

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. 「第2回ユネスコクラブ全国サミット – 『平和の文化』構築とESDの推進に向けた大学生からの提言」

玉川大学教育学部は、平成25年度「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」において2013年11月30日に行われた「第1回ユネスコクラブ全国サミット」の成果を受け、ユネスコクラブの大学間交流をさらに活性化させ、大学ユネスコクラブの全国的ネットワーク構築の歩みを一層進めていくため、ASPUivNetが受託した平成27年度「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、2015年11月28日に玉川大学にて、玉川大学ユネスコクラブとの共同主催のもと、「第2回ユネスコクラブ全国サミット」を実施した。

この「第2回ユネスコクラブ全国サミット」では、全国の大学ユネスコクラブおよびユネスコ協会青年部の計11団体の代表学生53名およびユネスコ活動指導者15名が集い、ESD推進に向けて大学ユネスコクラブの果たすべき役割とその将来展望について協議を行った。参加団体がお互いの活動紹介をした上で、『『平和の文化』構築とESDの推進に向けた大学生からの提言』という基調テーマのもと、平和の文化と持続可能性というユネスコ理念の根幹をなすテーマについて、「平和で持続可能な社会の実現に向けてユネスコ活動を行う大学生には何ができるのか」という問いに焦点化して掘り下げた議論を行うことができた。第2回全国サミットでは全体会と並んで分科会方式を導入し、平和の文化と持続可能性に関連する5つのテーマについて、異なる大学やユネスコ協会の混成部隊によるグループワークを行い、各グループがその議論の成果を発表し合ってサミット全体としての「共同声明」にまとめる、という作業を行った。

「第2回ユネスコクラブ全国サミット」の顕著な成果として、大学ユネスコクラブ間の情報交換と連携のネットワーク構築に向け、ユネスコクラブの大学間交流と協同をより確実に具体的な軌道に乗せてゆこうという意向について参加者全体に合意形成がなされたことが挙げられる。ユネスコクラブの大学間ネットワークの具体的な形態や方法については、「ユース」の枠組みと「大学ユネスコクラブ」の枠組みとの関係性や連携方式も含め、さまざまな見解が出され、今後の課題として残された。しかしユネスコクラブの大学間交流を恒常化・定例化し、ESD推進に向けて協同してできる大学間合同プロジェクトを開発してゆこうという意向で参加者一同が一致したことは今後の取り組みの足掛かりとなる着実な成果である。その取り組みの一環として、是非とも「第3回ユネスコクラブ全国サミット」を実現させようという意向でも参加学生たちは合意した。具体的には、大学生にとってアクセスしやすいSNS、とくにFacebookを使ってお互いの情報交換を定例化していくこと、現在玉川大学が運営管理している「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページを、ユネスコクラブの大学間ネットワークのホームページとして改装、転用すること、さらには地域ごとのESD促進に向けた大学間協同セミナー等の開催を活性化、定例化していくことが提言された。共同声明に記載されたESD推進への具体的アクションを大学間で協力しながらどう進めていけるか、またより広く「ユース」の枠組みとの整合性をどう図れるかが、今回のユネスコクラブ全国サミットの成果をどれだけ持続的に将来に繋げてゆけるかを左右するカギであると言える。

2. 「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの運営管理

多摩市や稲城市、川崎市、横浜市など近隣自治体とのユネスコスクールにおける連携を強め、ASP 地域ネットワークとしての機能を拡充するために、平成 24 年度に開設した WEB 上のホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」(<http://unesco-school-tama.jp>) を本年度のユネスコスクール活動の拡充と連絡体制の強化のために運営管理した。

3. 第7回ユネスコスクール全国大会への参加

2015年12月6日に、昭和女子大学で開催された『第7回ユネスコスクール全国大会』に本学教育学部の小林亮教授および玉川大学ユネスコクラブの文化学生5名が参加し、ユネスコスクールの将来展望についての議論に参加した。

4. ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet) の活動

a) ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の加盟大学として、「平成27年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」に関する ASPUnivNet 第1回、第2回連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。

b) ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の運営委員会を構成する運営委員として、とくに ACCU、奈良教育大学（運営委員長）、岡山大学と連携しながら、ASPUnivNet の事業運営にあたった。

c) 奈良教育大学が受託した「平成27年度日本／ユネスコ パートナーシップ事業」としての「ESD 教員研修プログラムのあり方に関する調査研究」プロジェクトに、本学教育学部の小林亮教授が共同研究者として参加し、検討委員会での議論に参画したほか、2015年11月26日に多摩市教育委員会および横浜市永田台小学校を対象にした ESD 教員研修プログラムに関する聞き取り調査を実施した。

d) 奈良教育大学主催の「第3回学ぶ喜び・ESD 連続公開講座」(2015年7月3日)に本学教育学部の小林亮教授が講師として参加し、「ESD と文化の和解 - 『恨』の文化と平和の文化」の表題での講演を行った。

e) 東海大学主催の「ESD 交流セミナー」(2015年9月19日・20日)に玉川大学ユネスコクラブの学生グループが参加し、また本学教育学部の小林亮教授がユネスコスクールの課題と将来展望について基調講演を行った。

5. 第1回ユネスコスクール神奈川県大会

2015年8月1日に横浜市立幸ヶ谷小学校で開催された「第1回ユネスコスクール神奈川県大会」の企画運営に当たった。また本学教育学部の小林亮教授は当大会にて APCEIU 主催「第15回アジア太平洋地域国際理解教育ワークショップ」(2015年7月21日～30日)の参加成果と、韓国におけるユネスコスクール事業の展開についての報告講演を行った。

6. 「第15回アジア太平洋地域国際理解教育ワークショップ」への参加

「アジア太平洋地域国際理解教育センター」(APCEIU)が教員の能力形成を目的として2015年7月21日～31日に韓国(ソウル、DMZ)で実施した国際ワークショップ「第15回アジア太平洋地域国際理解教育ワークショップ」に本学教育学部の小林亮教授が参加した。とくにユネスコの新たなイニシアティブである地球市民教育(GCED)に関するグループワークを主導した。

7. ユネスコスクール支援活動

a) 2016年1月22日に横浜市立幸ヶ谷小学校で開催された「ESD 重点授業研究」にて講師として授業評価とESDの世界的動向についての講演を行った。

b) 2016年1月23日に湘南学園中学高等学校で開催された「ESD 講演会」にて講師として「ESDの課題－ユネスコスクールの展望」という表題で講演を行った。ここでは特に、ESDの視点と地球市民教育(GCED)の視点の相補的かつ統合的關係について、ユネスコの価値教育の視点から指摘を行った。

8. ユネスコスクール加盟申請書の添削修正

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)加盟大学として、ACCUからのご依頼に基づき、平成27年度は、以下の6校のユネスコスクール加盟申請書の添削と、修正へのコメントを行った。

- ・桜丘中学高等学校(再修正)
- ・町田市立小山田小学校
- ・茨城キリスト教学園中学校高等学校
- ・麴町学園女子中学校高等学校
- ・聖徳学園中学高等学校
- ・東京都立六本木高等学校

9. 玉川大学ユネスコクラブの活動

a) 第2回ユネスコクラブ全国サミット

玉川大学教育学部との共同主催により、「平成27年度日本／ユネスコ パートナーシップ事業」として、2015年11月28日に「第2回ユネスコクラブ全国サミット」を実施した。平和の文化とESDの推進に向けて大学生ができる貢献について全国の大学ユネスコクラブの参加学生と協同討議を行い、「共同声明」を作成した。また大学ユネスコクラブの全国的ネットワーク構築に向けた具体的なロードマップを共同作成した。げない、他大学のユネスコクラブとの協議を通じて、「第3回ユネスコクラブ全国サミット」の開催を企画準備中である。

b) 訪日訪問団との交流プログラム

ユネスコスクールにある課題活動団体としての玉川大学ユネスコクラブは、2015年6月23日～7月1日にかけて、玉川大学との提携校でもあるアメリカ・エヴァーグリーン大学の日本への訪問学生団との交流プログラムを実施した。交流会では、日米両国の文化や教育事情についてお互いに紹介をすると同時に、気候変動、エネルギー問題、社会格差、民族対立やテロなど、国や文化圏を超え

て人類が共通に直面しているグローバルな諸問題について大学生の立場から議論と意見交換を行い、「地球市民」としての自覚を深めるきっかけ作りとして活用した。また同じく玉川大学の提携校であるシンガポール国立大学の訪問学生団と、2015年6月11日に交流会を行い、アジア太平洋地域における教育問題についての課題共有を行った。

c) 広島スタディツアー

2015年8月29日～9月1日に広島にスタディツアーを行った。原爆ドーム、宮島などの世界遺産訪問による平和学習に加え、広島大学ユネスコクラブおよび広島大学附属中学高等学校ユネスコ班との交流会をそれぞれ行い、「平和の文化」促進に向けての具体的な方法論について協同討議した。この広島スタディツアーの成果は報告書にまとめた。

d) ESD 交流セミナー

東海大学主催の「ESD 交流セミナー」（2015年9月19日・20日）に玉川大学ユネスコクラブの学生グループが参加し、東海大学はじめ、本セミナーに参加した神奈川県下のユネスコスクール加盟校の生徒との交流と情報交換を行った。

e) UNESCO ユースフォーラム in みなと

青年ユネスコ活動の連携強化と地域ネットワークの構築に向け、港ユネスコ協会の提唱に基づき、玉川大学ユネスコクラブ、慶應ユネスコクラブ、港ユネスコ協会青年部、新宿ユネスコ協会青年部の共同企画による研修会「UNESCO ユースフォーラム in みなと2015」が2015年10月3日(土)に、港区立男女平等参画センターを会場として開催された。ユネスコ活動の今日的課題を再検討し、ESDをはじめとする社会の要請に対し、青年がいかに連携し、取り組んでゆくかについて議論を深め、またこうした協同の学び合いを目的とした UNESCO ユースフォーラムを今後も継続的に行ってゆくことで合意した。

f) さがみはら国際交流フェスティバル

2015年10月11日に相模原市淵野辺で開催された「さがみはら国際交流フェスティバル」に参加し、留学生の日本語スピーチ大会のファシリテーターを務めた。また留学生グループとの交流を深めた。

g) 奈良 ESD 合同勉強会

2015年10月17日・18日に奈良教育大学ユネスコクラブが主催した「奈良 ESD 合同勉強会」に参加し、ESD の視点からの大学生による地域貢献のあり方について協議を行い、また共同の実践活動を行った。

h) ユネスコクラブ交流会

2016年1月30日・31日に玉川大学を会場として、玉川大学ユネスコクラブ、奈良教育大学ユネスコクラブ、岡山大学環境部の部員学生が集い、「第2回ユネスコクラブ全国サミット」の成果をふまえながら、ESD の更なる推進に向けての大学生の貢献のさまざまな可能性について互いの活動報告も併せて協議した。今後も定期的にこうしたユネスコクラブ交流会を実施してゆくことで合意した。

i) ポーランド・スタディツアー

玉川大学ユネスコクラブは、2016年2月22日～29日に、ポーランドにスタディツアーを行った。アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館（強制収容所跡）、ヴァヴェル城、ヴィエリチカ塩鉱、クラクフ旧市街をはじめとする世界遺産を見学すると同時に、ポーランド・ユネスコ国内委員会を訪問し、ラタジスキー事務総長との会見にて、ポーランドのユネスコスクールの現状と成果、ポーランドにおけるESDの教育課題、他のEU諸国との交流や連携の現状等について学習した。またポーランド最古のユネスコスクールである第67ゼスポル中学高等学校（ワルシャワ）を訪問し、同校の生徒と交流した。日本・ポーランド双方の文化について紹介すると同時に、戦争と平和の意味と、歴史的トラウマを抱えた国同士の和解の課題について共同討議を行った。同校とは今後とも交流を続けていくことで合意がなされた。全体として、ポーランドにおける文化の多様性とヨーロッパ諸国との繋がりの深さ、そして地域の文化伝統の価値について学ぶことができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（「ユネスコスクール研修会」などのイベント）